

1. 募集人員

コントラバス首席奏者 1名

2. 応募資格

プロ・オーケストラの首席奏者としての演奏能力を有する者

3. 応募〆切

2022年10月24日（月）郵送必着

4. 選考方法

【予備選考】書類審査

※予備選考の可否、および第1次選考のスケジュール等の詳細は、郵送にて通知します。

【第1次・第2次選考】実演審査

◆日程 2022年11月14日（月）13：30以降 開始予定

◆会場 東京藝術大学（東京都台東区上野公園12-8）音楽学部内

※第1次選考の合格者には、第2次選考にご参加いただきます。

※第2次選考の可否は、郵送にて通知します。

5. 課題曲

【第1次選考（実演審査）】

以下の（1）および（2）を演奏すること。

（1）J.S.Bach : Cello Suite No.6 BWV1012 より Courante

※繰り返し無しとする。

※原曲のチェロの譜面を用い、記譜音で演奏すること。

※4番線Eより低い音は、1オクターブ上げて演奏すること。

※楽譜出版社の指定は無しとするが、原典版を推奨する。

（2）G.Bottesini : Concerto for Double Bass No.2 in B minor

より 第1楽章 カデンツァ（作曲者自身のものに限る）付き

※ピアノ伴奏付きで演奏すること。また、伴奏者は各自同伴のこと。

※楽譜出版社の指定は無しとする。

【第2次選考（実演審査）】

オーケストラスタディ

※予備選考（書類審査）の合格者に、楽譜を郵送する。

※4番線Eより低い音は、1オクターブ上げて演奏すること。

(楽器に関する注意事項)

- ・本学から楽器の貸与は行いません。
- ・本学に駐車スペースはありませんので、自家用車で楽器を運搬される場合は、近隣のコインパーキングなどをご利用ください。かかる費用については、受験者の負担となります。(近隣のコンビニ等に駐車することは絶対にお止めください。)
- ・オーケストラ用弦を用い、オーケストラチューニング(1番線からGDAE)で演奏してください。(1次、2次共通)

6. 待遇

- ◆職名 東京藝術大学音楽学部 演奏講師(業務委託契約)
- ◆委嘱期間 2023年4月17日～2023年10月16日
(上記期間を試用期間とし、審査対象とする公演での演奏に対し、審査を行う。審査に合格し、当該者と大学双方合意の場合は、以後年度毎に契約を更新する場合がある。上限年齢は60歳。)
- ◆委嘱料 本学規定による(※1)
- ◆委嘱時間数 年間300～340時間程度(未定)
- ◆交通費 委嘱料とは別途にて、実費を支給(ただし、本学規定による)
(※1)【委嘱料の例】前年度末時点で、4年制大学卒業後の経過年数が8年6か月未満の者は、1時間あたり3,800円。前述の経過年数が8年6か月以上の者は、1時間あたり5,100円。(2022年度実績、試用期間中も以後も同じ。)

7. 応募提出物・提出方法

以下の2点を、郵送にて提出すること。

- (1) 履歴書(市販の様式)
自筆、写真貼付のこと。
- (2) 演奏活動歴(書式自由)
特にオーケストラ分野、室内楽分野における実績等を中心に記載すること。
- (3) 返信用封筒(長3)
返送先の住所を記載の上、切手84円分を貼付すること。

※持参及び電子メール等による応募は受付いたしません。

※応募提出物は返却いたしませんので、あらかじめご了承ください。

8. 書類郵送先

〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8
東京藝術大学音楽学部 藝大フィルハーモニア管弦楽団事務局 宛

※封筒に「Cb首席奏者 応募書類在中」と朱書すること。

9. 問合せ先

東京藝術大学 藝大フィルハーモニア管弦楽団事務局
e-mail : orchestra@ml.geidai.ac.jp

(次ページへ続く)

10. その他

- ・応募にかかる費用は、応募者の負担とします。
- ・提出書類は、選考事務のみで使用することとし、その他で使用することはありません。
- ・本学は敷地内全面禁煙となっています。

【藝大フィルハーモニア管弦楽団 プロフィール】

藝大フィルハーモニア管弦楽団（2016年秋、藝大フィルハーモニアから改称）は東京藝術大学に所属するプロフェッショナル・オーケストラで、年2回の「定期演奏会」、声楽科との「合唱定期」、オペラ研究部との「オペラ定期」、「新卒業生紹介演奏会」のほか、年末恒例の「チャリティーコンサート・メサイア」（朝日新聞厚生文化事業団・朝日新聞社主催）、「台東第九公演」などを行っている。

教育面では、器楽科、声楽科学生との協奏曲等の共演および作曲科学生の作品披露を行っている「モーニング・コンサート」、指揮科学生との演奏会・試験・演習など、学生の演奏経験の拡充に資している。前身である東京音楽学校管弦楽団は、我が国初の本格的なオーケストラで、ベートーヴェンの《交響曲第5番「運命」》、《交響曲第9番「合唱付き」》、チャイコフスキーの《交響曲第6番「悲愴」》などに加え、ブルックナーの《交響曲第7番》と《交響曲第9番》を本邦初演し、日本の音楽界の礎石としての役割を果たしてきた。2017年6月には「日本・チリ修好120周年」を記念して、南米チリ公演（4公演）を行い、聴衆を魅了した。（公社）日本オーケストラ連盟準会員。

(以上)